専大スポーツ

No. 385

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

ITTFチャレンジ・スロベニアオープン

及川 シニア初優勝

世界ランク77位に

バックハンドで積極的に攻める及川（スロベニアオープン）

卓球のITTFチャレンジ・スロベニアオープン（4月2～6日、オトーチェッツ）の男子シングルスで及川瑞基（商3・青森山田高）が優勝。国際大会のシニアクラスで初の栄冠を手にした。大会後に発表された5月の世界ランキングでは103位から77位にジャンプアップした。

2月に男子U21クラスの世界ランキング1位になった及川は今大会、年齢制限のないシニアクラスに挑んだ。

決勝の相手はスロバキアのルボミール・ピシュティ選手（世界ランキング78位）。「今大会で一番癖のある相手でやりづらかったが、3セット目からは自分の試合を展開することができた」と相手を攻略し、4―2で勝利した。「シニアでは初めての優勝だったので、とてもうれしい」と振り返った。

1回戦をストレート勝ちで突破し、続く2回戦の相手はスペインのアルバロ・ロブレス選手（同56位）。格上の相手に「かなりの強敵だったが、過去の対戦は3戦全勝で、やりやすい部分もあった」と4―2で勝利を収めた。「この試合で勢いに乗れた」との言葉通り、決勝まで勝ち進んだ。

今年度の意気込みとして、「世界ランキングでは50位以内を目標に、多くの上位選手に勝てるよう、実力をつけていきたい」と飛躍を誓った。

女子シングルスでは安藤みなみ（商4・慶誠高、世界ランキング66位）が3位に入賞した。

（髙橋玲央・法3）

小林がベスト4

関東学生卓球新人戦＝5月3、4日、神奈川県・座間市立市民体育館

男子シングルスで小林准也（文1・松徳学院高）が準決勝に進出。試合はセットカウント1―3で敗れたが、大学最初の公式戦でベスト4に入った。

シングルスでは男子の吉田海斗（文1・希望が丘高）、女子の木村香純（経営1・四天王寺高）がベスト8に進出。ダブルスでは男子の小林・吉田ペアが同じくベスト8に入った。

荒木 フリー57kg級 V 前田 グレコ72kg級

世界ジュニア出場権獲得

レスリング・JOCジュニアオリンピックカップ＝4月14、15日、横浜文化体育館

男子フリースタイル57kg級で荒木大貴（経営2・玉名工高）、同グレコローマンスタイル72kg級で前田明都（経営2・花咲徳栄高）が優勝を果たした。

この結果、9月にスロバキアで開催される世界ジュニア選手権の出場権を手にした。

荒木は持ち前のアグレッシブなプレーで終始相手を圧倒。大会を通じて相手に一度もリードを許すことなく優勝を勝ち取った。「一戦一戦集中して、普段やってきたことをしっかり出せた結果」と胸を張る。

前田は全試合で無失点のテクニカルフォール勝ちを収めての優勝。「グラウンドの攻めで着実にポイントを取れたことが優勝につながった」と勝因を冷静に語った。

昨年度はともに準優勝に終わり、悔しい思いをした荒木と前田。その雪辱を最高の形で果たした。世界への挑戦権を得た2人の活躍から目が離せない。

ほかの主な入賞者は次の通り。

▽男子グレコ55kg級・河名真偉斗（経済1・三次高）＝3位

▽同87kg級・木村海騎（文1・高知東高）＝3位

（藤森崚祐・文3＝写真も）

果敢にポイントを奪いにいく荒木

相手選手を豪快に投げる前田

1万5000㍍ 山本が優勝

全日本ローラースケートスピード選手権＝4月7、8日、江戸川区・水辺のスポーツガーデンローラーコート

ローラースケート部の6人が男子シニアクラスに出場し、山本天平（文3・船橋芝山高）が1万5000㍍エルミネーションで優勝（29分08秒497）を果たした。

今大会最初の決勝種目となった1万5000㍍エルミネーションは接戦となったが、最終局面での仕掛けが功を奏し、逃げ切りに成功した。昨年3位で終わった悔しさを晴らす結果に「出場選手の実力が拮抗しているので展開が気がかりだったが、自分から仕掛け、レースを組み立てる作戦がうまくいった」と振り返り、勝因を語った。

1000㍍は1分33秒713で2位、500㍍＋Dは46秒108で3位、1万㍍ポイント&エルミネーションは15点で同じく3位と各種目で上位に入賞。しかし、全種目で優勝を狙っていた山本にとっては不本意な結果に終わり、「どの種目も勝てたレースだった。要所で決めきる力が足りなかった」と悔しさをにじませた。（上野夏帆・文4）

1万5000㍍で先頭を快走する山本

石川、高見澤が強化指定選手に

スピードスケート

日本スケート連盟の「平成30年度強化選手」が4月26日に発表され、スピードスケート部の石川斗来（経営2・白樺学園高）が「シニア強化選手B」「ディベロップメント強化選手」、高見澤光希（経営1・小海高）が「ジュニア強化選手A」の指定を受けた。

菊池がベスト16

フェンシングワールドカップ・アメリカ大会＝3月16～18日、米国・アナハイム

2017―18シーズンから女子フルーレのシニアのカテゴリーに参戦している菊池小巻（商4・翔陽高）＝写真＝が、日本勢唯一のベスト16入りを果たした。

今大会に向け、「前回の大会の反省を生かし、技術面より、落ち着いて冷静に判断できるようにメンタル面の強化に取り組んだ。試合開始の合図前に自分のプレーをしっかりとイメージし、準備することを徹底した」

予選プールを5勝1敗で通過し、決勝トーナメントに進出。ベスト16をかけた試合では、菊池が目標にしていた北京五輪銀メダリストのナム・ヒョンヒ選手（韓国）に15―13で逆転勝利した。

「1セット目は3―7で負けていたが、そこから気持ちをリセットして戦うことができた。会場の盛り上がりもすごかったが、その雰囲気の中でも堂々と戦えた」と振り返った。

学生最後の年を迎え、「今年はワールドカップでベスト8に入り、安定してその順位をキープしたい。そして、世界ランキングを現在の48位からもっと上げていきたい」と目標を掲げた。

（久保信裕・文3）

6/10 集中応援日

関東大学サッカーリーグ戦

関東大学サッカーリーグ戦（前期）は第5節が終了し、専大は2勝3敗の勝ち点6で12チーム中10位。開幕戦で勝利を収め、白星スタートを切ったがその後は苦戦が続いている。6月10日（法大戦、北区・味の素フィールド西が丘、14時キックオフ）は集中応援日となり、専大生は先着100人に無料チケットが配布される。相手は昨季の総理大臣杯王者。白熱したゲーム展開となることが予想される。スタンドを専修グリーンに染め上げ、熱い声援で選手たちと共に戦おう。

源平貴久監督は「まずは先制点を奪われないこと。その中で良いところは伸ばし、悪いところは改善していかなければいけない」と巻き返しを誓う。

（藤森＝写真は駒大戦）

国際大会出場選手

◇卓球部
郡山北斗（経営4・関西高）／田添響（商4・希望が丘高）／三部航平（商3・青森山田）／及川瑞基　ITTFチャレンジ・タイオープン（5月16～20日＝タイ・バンコク）
安藤みなみ／及川瑞基　ITTFワールドツアー・中国オープン（5月29日～6月3日＝中国・深圳）

◇バスケットボール部
キング開（文1・アレセイア湘南高）　2018adidas EUROTOUR（5月14～22日＝セルビア・ベオグラード）

◇ラグビー部
石田楽人（経営3・桐蔭学園高）　ワールドラグビーU20チャンピオンシップ（5月30日～6月17日、フランス）